

建設関連ニュース

●「道内建設業（保証契約者）の財務比率」を公表（北保証）

北海道建設業信用保証株は、2023年3月までの1年間の決算を対象に道内建設企業の財務数値を分類集計した「道内建設業（保証契約者）の財務比率」をとりまとめた。資材価格高騰や賃上げ基調などが影響している比率項目はあるが、コロナ禍の状況下にあっても順調な経営がなされており、2021年度に続いて高い健全性を示しているとした。財務比率22項目中10項目が過去5年間における最高値を示しており、とりわけ健全性に係る9項目のうち6項目が最高値となっている。

●23年度上半期振り返り定常的事業量の確保重要（北保証）

10月17日、北海道建設業信用保証株は、保証事業から見た2023年度上半期公共事業の動向を振り返った。上半期の前払金保証請負金額は、北海道新幹線の工事発注が押し上げ前年同期比15.2%増となったが「楽観視はできない。国土強靱化など定常的な事業量確保が業界にとって重要」とし、今後の見通しでは「国土強靱化実施中期計画が法定化され、政府の動きが予算としてどう反映されるかが業界としても非常に大きいと思う。動向を注視している。」と説明した。

●23年度補正予算案（政府）

政府が11月20日、臨時国会に提出した2023年度補正予算案のうち、北海道開発事業費は事業費ベースで前年度第2次補正比8.2%増の2429億7800万円に上った。直轄は12.4%増の865億9000万円、補助は6%増の1563億8800万円という内訳。ゼロ国債は381億4600万円を設定し、直轄312億8100万円、補助68億6500万円とした。国費ベースでは9.1%増の1649億5700万円。直轄、補助ともに前年度第2次補正を上回った。

●24年度当初予算案（国交省）

政府の2024年度当初予算案のうち国土交通省関係分が判明した。国費ベースで道路整備は1兆6715億円、治水は8522億円、港湾は2449億円と、いずれも前年度と同等程度で調整。防災・安全交付金は2%増の87億700万円、社会資本整備総合交付金は8%減の50億6500万円となっている。24年度予算は、国民の安全・安心の確保、持続的な経済成長の実現、個性を生かした地域づくりと分散型国づくりの3点を柱に設定。23年度補正予算と合わせて切れ目なく取組を進め、施策効果の早期発現を目指す。

●CCUS 就業履歴蓄積で環境整備（建設業振興基金）

10月16日、あらゆる現場で建設キャリアアップシステム（CCUS）の就業履歴を蓄積できるようにするため、建設業振興基金が準備してきたツール「カードリーダーのロギング機能追加」「安価なカードリーダー」に続き「カードリーダーなしで就業履歴を記録」するツールが本格始動する。三つのツール展開により、就業履歴が蓄積しにくいとされてきた小規模現場へのCCUS普及を目指す。

●自治体工事でCCUSの導入拡大（国交省）

建設キャリアアップシステム（CCUS）の導入や活用に積極的な元請企業を評価する動きが、地方自治体で着実に広がってきている。国土交通省がまとめた最新の調査結果（8月21日時点）によると、都道府県で地元建設業協会の同意が前提になる同省直轄Cランク工事でのCCUS活用モデル工事を実施済みまたは予定しているのは、青森、山形を除いた45都道府県にのぼる。都道府県や市区町村が発注する工事でも同様の動きは増えている。

●建築BIM加速化事業、24年度も当初予算で継続（国交省）

国土交通省は2022年度第2次補正予算で創設した「建築BIM加速化事業」を、24年度も当初予算で継続して取り組む。一定の要件を満たす建築物の新築プロジェクトを対象に、設計BIMモデルや施工BIMモデルの作成にかかる費用を幅広く補助する。プロジェクトの設計や施工を直接請け負う元請の意匠設計事務所やゼネコンだけでなく、下請の専門設計事務所や専門工事会社も補助対象とする。24年度予算概算要求に必要な経費として80億円を新規計上した。

当社がSNSを活用した建設業の魅力発信の取組を開始して、ほぼ1年が経過しました。フォロワー数も400近くなり一定の閲覧数に落ち着いています。HCSインスタ部は、立ち上げ時に大変ご貢献頂いたK山さんが10月に異動となり、その後を本年採用のMさんが引継ぎ、これまた味わい深い投稿を続けています。最近「コンストラクション甲子園」の情報発信など、インスタ部員は情報のあるところに出かけ取材・発信を行っており、取組の創意工夫にあれこれ知恵を巡らせているところです。

ところで、先日、Mさんの投稿「苫小牧工業高校建築現場見学会」が、当社SNS単独で初めて「いいね」100超えを達成しました。実は、SNSをスタートさせた時からですが、現場見学会の投稿は、イベントや各種取組の紹介の投稿などと比べて2～3割「いいね」が多く得られる傾向があり、時に、学習塾関係者であったり就職仲介企業など、他の投稿とは異なる方々も閲覧してくれたりします。

HCSインスタ部では、今年から道建協さんと連携して現場見学会の取材を行っていますが、見学会は、若い世代の方々に向けた建設業の魅力発信の一番の基本ではと確信を持ち始めています。新しい年に向けて、一層新鮮な情報を多くの皆さんと協力して発信していきたいと思います。（H.S）